



熊本家畜市場 子牛セリ



子牛を牛舎へ



育成担当 吉岡

肥育用素牛育成部会



導入直後の子牛たち：新しい環境に来て、ストレスや免疫低下により病気にかかりやすいため、事前の環境整備や健康チェックを徹底して行っています。

健康な素牛となるように 子牛を大切に育てています

部会長 水上卓男

より良い肉用牛となるために 育成は重要な役目を担っています

◇肥育用素牛(ひいくょうもとうし)とは、肉用牛として出荷するために肥育農家へ導入される子牛(月齢8カ月前後)のことをいいます。血統や発育状態がその後の肉質や体重を大きく左右するため、哺育(生後2カ月未満)育成(導入から出荷まで約6〜7カ月)は重要な役目を担っています。良い素牛が、肥育成績の約7〜8割を決定づけると言われているからです。

◇育成農家の役目：肥育農家へ健康な肥育用素牛を供給

生後2カ月未満の子牛を家畜市場でのセリ市や、子牛を産ませる酪農家や繁殖農家から導入します。それから月齢6〜7カ月まで肥育用素牛として大切に育て、家畜市場に出荷します。もしくは、肥育農家へJ Aを通して販売します。

※その後、肥育農家が濃厚飼料や稲わらなどを与えて肥育し、体重約850kg〜950kgまで大きくなったら肉用牛として出荷されます。

※導入する子牛は、生後間もないのでとてもデリケートです。ストレスなく、病気をしないように気を付けています。

和7年度J A菊池肥育用素牛育成部会総会



部会員6戸で、年間1200頭前後の素牛を出荷

肥育用素牛の減少や子牛価格の高騰等、畜産情勢は厳しい状況が続いていますが、部会員一同、健康な肥育素牛を生産するため、関係機関と連携し、衛生管理強化を図りながら事故率低減と優良素牛の供給に日々取り組んでいます。